

2019年1月9日

内閣総理大臣 安倍晋三 様
自由民主党衆議院議員 平沢勝栄 様

新日本婦人の会中央本部

性の多様性と権利を否定し、差別する平沢議員に 強く抗議し、暴言の撤回と謝罪、議員辞職を求めます

自民党の平沢勝栄議員が、1月3日、山梨県での集会で「少子化問題」にふれる中で、LGBT（性的少数者）の人々に対して、「この人たちばかりになったら国がつぶれてしまう」と発言したことについて、新日本婦人の会は強く抗議するとともに、暴言の撤回と謝罪、議員辞職を求めます。

平沢議員が述べたことは、国際的に認知されている性的指向や性自認など性の自己決定権を否定し、個人の尊厳を傷つけ差別する、決して許されない暴言です。「多様な性自認のあり方を受容する社会を目指す」ことを掲げた自民党の選挙公約にも、同党の「差別問題に関する特命委員会」の委員長という自らの職務にも反するものです。さらに、少子化は、長時間労働や低賃金、保育所不足や高い教育費など、自民党の政策こそ問われなければならない問題です。少子化問題でLGBTを攻撃するなど、言語道断です。

この問題は、自民党・安倍政権の根深い性差別や性の権利に対する無知・無理解をあらためて浮き彫りにし、安倍首相の責任は重大です。昨年夏、世論の大きな批判を浴びた同党の杉田水脈衆院議員の「LGBTは生産性がない」との雑誌寄稿にも、安倍首相は「まだ若いから」などと擁護し続けています。その後も自民党議員によるLGBT差別発言は繰り返され、今回の平沢議員の暴言にいたったのは、政権党である自民党の人権蔑視の体質をそのまま放置しているからです。

多様な性や個人の尊厳を否定する平沢議員にも、差別暴言を放置しつづける安倍首相にも、憲法を語る資格はありません。私たちはあらためて、安倍政権の退陣を求めます。